

# 中華人民共和国成立後の「奇装異服」について

## ——『解放日報』の記事を素材として——

乗 松 佳代子

### はじめに

1949年10月1日、中華人民共和国が成立した。それ以前、民国期における男子の服装は、中国式服装の長袍と西洋式服装の背広や中山服が主流であった。中国伝統衣裳である長袍は、主に支配層に着用されていた。背広は正装着やおしゃれ着として幅広く多くの人に着用されていた。また、孫文考案の中山服は、政治的色彩を帯びていたので、国民党に関心のある人や若者たちが主に着用した。一方この時代の女性は、中国伝統衣裳の旗袍を着用していた。

中華人民共和国成立以後、上述した民国期の服飾状況は、どのように変化していったのかを、当時の政治体制と社会状況を視野に入れて考察してみた。1949年、中国は毛沢東を主席とする中央人民政府を樹立し、暫定的な行政機関としての政務院を形成し、人民民主主義独裁の道を歩み始めた<sup>1)</sup>。さらに、1955年後半からは、中国農村の集団化が急激に進み、急進的な社会主義建設への路線転換が開始した<sup>2)</sup>。社会主義の思想となっていった中国社会においては、民国期に支配層が着用していた長袍は、ブルジョアのものだと判断され、気軽に着ることは難しい服となり、「文化大革命」終結時には、ほとんど姿を消していた。かわりに、社会主義国家の象徴として、中山服が国民の一般的な活動着となっていった。多種多様な中山服様式の服装が作製され、多くの国民がそれぞれの活動に合わせて着用した。

1960年代中期、上海では経済が発展し、人々の生活水準は向上した。中山服様式の軍服一色という服装状況ではあったものの、多種多様な華やかな服装を手に入れることも出来るようになった。上海の市民の中には、海外、とりわ

け香港に住んでいる親類縁者を持つものが多かったようである。それにより、若者達やおしゃれに興味のある人々は、海外から伝わってくるファッション情報に関心を示すようになった。しかし、現実には社会主義の思想が中国の社会に浸透し、国民には軍服のような服装を着用するよう求められた。

新中国成立以後の中山服の変遷を『人民日報<sup>3)</sup>』の記事から考察していく中で、「奇装異服」という言葉を見つけた。『人民日報』の中に『解放日報』が「奇装異服」について4か月間、読者討論をしたという記事が出ていた。「奇装異服」の賛否は、当時の国民に浸透する社会主義思想とそれに反発する一部のブルジョア思想の対立を如実に表す題材ととらえ、それを詳しく検証することにした。本論では、『解放日報』における4か月間の読者討論の抜粋を翻訳し、内容について考察している。それによって、当時の社会状況や国民の持つ思想を分析することが、本論の目的である。

また、「奇装異服」という言葉には、「見慣れない変わった服装」という意味以外に、「新しいこと」という意味にも一般的に使われていることが分かった。実際に『解放日報』で討論している投稿者たちは、「奇装異服」をどのようにとらえていたかも本論にて明らかにしていきたい。

## 1. 「奇装異服」

今回、本節にて「奇装異服」について研究し考察したことを論述する。「奇装異服」という言葉は本来、日本では聞き慣れない言葉である。中国の近現代について調べていくうちに、「奇装異服」という言葉は多くの分野で使われていることが明らかになった。漢字から読み取れる奇装異服の言葉の意味は、「奇抜な服装」と解釈されるが、実際は「新しいこと」という意味で、一般的に使われるようである。

近現代の中国の期刊誌に掲載されている論文を参考に調べてみた。その結果、例えば、科学大学で扱っている論文の内容に動物に対する研究で、「動物奇装異服有新解（動物「奇装異服」について新しい説明<sup>4)</sup>」、「奇装異服——鈴木 Desuperado400（「奇装異服」から連想する鈴木 Desuperado400）<sup>5)</sup>」、「科学的奇装異服（科学の「奇装異服」）<sup>6)</sup>」といった服装から離れた事柄にも

使われていることが分かった。また、「奇装異服」は活字のごとく服装に関係した内容も多くある。「1918、警方查禁奇装異服（1918年、警察庁は「奇装異服」をとりしまる）<sup>7)</sup>」、「民国期四川新生活運動と婦女奇装異服（民国期の四川新生活運動と女性の「奇装異服」）<sup>8)</sup>」。「奇装異服」は清朝末期、民国期の近代にも現れ、現代の中華人民共和国が成立してからは上述したように多くの分野で「奇装異服」という言葉は使われている。

中華人民共和国以後の中国の服飾社会を調査している中で、1964年11月14日、『人民日報』中山服の記事に「上海の広範の人々が、「奇抜な服装」を排斥する討論に積極的に参加。プロレタリアートの優れた伝統を発揚し、ブルジョアの思想作风（仕事をなす特別の態度）に反対する（上海广大人民积极参加抵制奇装异的服讨论 发扬无产阶级优良传统反对资产阶级思想作风）」という内容の見出しで、1964年5月12日の『解放日報』に「奇装異服」の記事が掲載されていた。それによると、「奇装異服」という言葉は、「奇抜な珍しい服」という意味にとれるが、実際には珍しい物とは限らず、其の服を見て受け止める人たちの「認識」の違いだということが明らかになった。社会主義国家となつてからの中国は、奇抜な服や人と違う目立つ服は受け入れられない服飾社会状況であった。そのような中で、特に若者たちが自分の理想とする服を着用したいという憧れをもって意思を通そうと思つても、受け入れる側が拒否すれば、希望がかなえられない時代であった。まさしく「奇装異服」は、時代の象徴として出来上がった造語だと考えられる。

また、この当時の香港の自由市場には、広東省から買い物に来る人も多かった。広東省でも「奇装異服」を着用する若者が多く、プロレタリアートの人たちにとっては、とても気になる存在であった。

今回、中華人民共和国成立後の、中国人の服装について考察する中で、1964年11月14日の『人民日報』の記事に「奇装異服」の記事が掲載されていた。その記事は、1964年6月4日の『解放日報』に掲載されていた記事を取り上げた。1955年頃より社会主義国家となった中国において、国民の着用する服装は国の指示でねずみ色軍装一色を半強制的に着用せざるを得なかったのが現状であった。そのような服飾状況の中、中国の大半の国民は国の意向に従つた

質素で、地味な色で、社会主義思想に合った服装を着用していたが、ある一部の国民、特に若者はルックスに合わせた西洋風の明るい色や華やかなファッションを求めた。着用する服装を選ぶのは当然自由だと今日では理解されるが、中華人民共和国成立以後の政治体制は、社会主義国家であったので、時代に反する服装が「奇装異服」とされた。国の方針に逆らう者は、ブルジョアや反対主義者として反発をかい、国の政治体制に順応している国民から拒否された。4か月間通して、『解放日報』の紙面上で愛読者の投稿討論会が行われた。討論の内容は、第2節で述べることとする。

## 2. 「奇装異服」討論の記事について

### (1) 話題の発端

上記に述べたが、「奇装異服」という時代性に合わない奇妙な珍しい服装についての内容が『解放日報』に記載されているということが、1964年11月14日の『人民日報』に書かれていた。その話題の発端は、社会主義の時代になり、中国の服飾社会で、国民が着用したい服装が客の注文を聞き入れなくなり、注文した客は店側の対応に理解できず店員と議論となったのである。客と店側の議論になった服装について、その場の状況を見ていた店員が『解放日報』に手紙で投稿した。そのことがきっかけで、『解放日報』では、読者に紙面上で「みんな、話し合おう！（大家談）」と、問いかけたのが事の発端である。以下に、店員の手紙の報告を記す。

1964年5月12日、上海南京西路高美服装店で女性客と店員との間でトラブルがあった。それは、一人の女性客がグレーのズボンを注文し、さらにズボンの裾幅を細くするよう注文した。その注文を聞いて、店員は細くしたらヒップはピチピチになり、小さなズボンになると注文を拒否した。それは社会主義の店では、社会の風習に害を与える商品になるので、そのような商品は作ることが出来ないと女性客に話した。彼女は、「お金を払うのは私なのに、どんな理由で拒否するのか。しかも私が細いズボンを穿いたら社会風習に影響を与えるのか。このようなズボンを作るのは、ブルジョアの思想なのか。」と、女性客は店員に問いかけた。翌日彼女は、再度店を訪れ、前日と同じデザインの注文

をしたが、かたくなに店員は拒否した。仕方なく、彼女は別の人に頼んで、買ったズボンを取りに行ってもらった<sup>9)</sup>。

客と店員とが服装の注文に対して議論している現場で聞いていた別の店員が、『解放日報』にその時の状況を手紙で投稿した。その手紙の投稿文を『解放日報』は、1964年6月7日、「決然として「奇抜な服装」を拒否する（坚决拒绝裁制奇装异服）」のタイトルで読者の手紙を紙面上に掲載した。それと同時に編集者の話で「どのようにこの問題を捉えるか？（应该怎样对待这个问题吗？）」と問題提議をした。第一部は、「境界線はどのように値するか？「奇装異服」が引き上げになった議論（界线应该怎样划？——从奇装异服引起的议论）」、第二部では、「これはただ服装のデザインだけの問題ですか？「奇装異服」が引き上げになった議論（这只是服装式样的问题吗？——从奇装异服引起的议论）」と、投稿議論を読者に呼びかけた。

以後、『解放日報』では、紙面上で読者に4か月間声をかけた。その間の投稿は、1690件以上の投稿が届いた。

その投稿内容は、『解放日報』の1964年5月～1964年9月と1964年9月～12月の資料にもとづき検索した結果、4か月間にわたって「奇装異服」について討論内容のまとめが14日間に分けて記載されていた。そこで筆者は、資料収集をし、表にまとめて以下に掲載した。

## (2) 討論の投稿内容

表1 『解放日報』の記事に見る「奇装異服」

年月日	版	記事の見出しと記事の中における奇装異服
1964年 6月7日(日)	2版	高美服装店の従業員は勇敢に社会の好い雰囲気を保護する（高美服装店职工于勇保护社会好风气） 「決然として奇装異服の仕立てを拒否する（坚决裁制奇装异服）」 (1) 読者の手紙：話題になった内容では、女性客は店員に消費者の需要に満足していない。店員は、社会主義の商業は、社会が受け止めない、社会の風習に害を与えるようなことは商品として作成できないと拒否した。この観念はどのように理解したらよいのか、ピチピチヒップに細い幅のズボン作成（当時の標準サイズは5寸6分。17.0cm）である「奇装異服」は社会的観念からしてどのように考えるべきかの投稿。（顾志辉）

		<p>(2) 編集者の話：投稿者に対して編集者は、以下に述べている。店員は社会主義の商業従業員として国家及び人民に対する責任感を提唱する。その責任感は、服装店だけではなく、革靴店、理髪店等、提唱すべきである。これは、デザインの問題だけではなく、ブルジョア及びプロレタリアートの生活スタイルの大問題である。読者に議論してほしいのは、例えば「作ったデザインのズボンは、私はいらぬ。あなたたちは商品を提供する。オーダーするのは自分の気に入るズボンを穿くため、あなたたちは何で拒否する。拒否する理由はなんなのか?」「あなたたちは、私のプライベートに干渉しすぎ」等々。確かに社会主義商業は、出来るだけ消費者の要求を満足しなければならないが、私達、社会主義の社会のために、客はどんな服装が好きなのか、一般的に個人で自由に選択することができる。しかし、その中に、境界線がある。この境界線をどこに引くのか、読者に議論してほしい。」と編集者は読者に問いかけた。</p>
6月12日(金)	2版	<p>「境界線はどのように値するか? 「奇装異服」が引き上げになった議論 (境界線应该怎样划? ——从奇装异服引起的议论)」</p> <p>(1) 編集の話：みんな強烈的な反応を示している。三日間で投稿が357件あった。その中のほとんどの人たちは、高美を指示すると！しかし、一部の人は自分の限界を示した。</p> <p>(2) どんな需要に満足するか? (満足什么样的需要?) ズボンの裾を補正するとか、革靴の先をとがらせることはある程度到達すると「奇装異服」になる。要するに服装と革靴を通して非プロレタリア、プロレタリアの2種類の興味と2種類の生活方式の卑劣闘争を反映しているので必ずどちらにするか自分の意見をはっきりすべきである (向明中学教师 陈漱石)</p> <p>(3) 服を着るのも階級制があるのですか? (穿衣服也有阶级性吗?) 投稿者の文章を読んで一つわからないことがある。それは、「奇装異服」を着ること、髪型、とがった靴を履くことは全く個人の趣味の問題だと私は思う。みんなそれぞれ性格も違うし、趣味も違うので好き嫌いのあるのは当然である。ある人は、花柄が好きであるが、また、他の人は花柄を着ない。ある人は、散髪はするがブロー、ワックスはしない。これは階級制の問題ではなく、全く個人の個性と趣味が異なることである。(陆永城)</p> <p>(4) 皆は、熱烈的に従業員を指示する。彼らが、社会の良い風習を意識することを称賛する。(广大群众热情支持高美职工 赞扬他们维护社会好风气)</p>
6月14日(日)	2版	<p>「境界線はどのように値するか? 「奇装異服」が引き上げになった議論 (境界线应该怎样划? ——从奇装异服引起的议论)」</p> <p>(1) 顧客は衣食父母の言い方は正しいのか? (“顾客是衣服父母”的说法是不对的) 投稿者は、自分の過去の仕事の経歴を思い出して語った。いつも上司からの指導は、客は衣食父母だったから、いつも客を尊敬しなさいと！しかし、全ての客に対して尊敬するのではなく、実際に尊敬するのは金持ちの奥さん、お嬢さんたちが店に来るとたばこやお茶を店側は客に出す。普通の労働者は、利益につながらないので断った。実際、私も、よその店で買い物しようと思いい店に入ろうとして、店側から冷たい態度を受けた。その当時の顧客は衣食父母であり、実はお金が衣服父母の代名詞であった。今は社会主義であるから、政治上では店側と顧客は平等である。顧客は衣食父母ではない。という言い方は店員にも顧客にも侮辱することになる。(长风铁产制用品合作社 顾庆青)</p>

		<p>(2) どんな心を満足するのか、みななければならない(要看“称”什么样的“心”) 満足する心はなんですかと、私は満足した者にならなければならない。どんな心、どんな意味と、社会風習に合わないから顧客が満足するように合わせることはない。社会に合わない者は、拒否する権利はある(店員) 今回の話題の内容は、社会に合わない内容なので、店員は注文を拒否したのは正しいことである。(上海试剂广 高呈祥)</p>
6月17日(日)	2版	<p>「境界線はどのように値するか? 「奇装異服」が引き上げになった議論(界线应该怎样划? ——从奇装异服引起的议论)」</p> <p>(1) 「配慮しない」と「臨機応変」(“死板”和灵活) 高美は注文者に拒否した。融通の利かないことになる。その社会制は、私からしたら、店は消費者のために商品をいろいろ用意して、サービスの方法もいろいろと考える。客の個性に合わせることである。つまり臨機応変。但し、「奇装異服」のことは、配慮する問題ではない。商売する時は、政治も考えなければならぬ。これは、資本主義との経営方式の違うところである。(胡育民)</p> <p>(2) 二つの仕事内容の件(两件份内事) 「奇装異服」の別のニュースが載っていた。タイトルは、「份内」、意味は「仕事の範囲以内です」ということである。内容は、店の店員と倉庫の管理人。一人の女性客のために、アイロンをかけたのが黄色くなったことがニュースに載った。倉庫の管理人は大変良心的であったので、2晩かけて修理した。社会主義商業は、不正当のものの拒否をする。受けるか受けないかは、線を引き。それは、社会主義の正原理でお金の為ではない。(刘朝君)</p>
6月20日(土)	4版	<p>「境界線はどのように値するか? 「奇装異服」が引き上げになった議論(界线应该怎样划? ——从奇装异服引起的议论)」</p> <p>(1) 商売だけではない(不仅仅是做买卖) 女子中学生がお店で靴下を選んでいった。店員は縮まない商品の紹介を女子学生にした。この店員は良心的。当然、社会主義では商品に対して責任を負うこと。これは社会主義の良いところ。だから「高美」は、単純な商売ではなく、政治面を考えなければならない。(浙江商业厅上海办事处 曹南雄)</p> <p>(2) お金を払う「商品をもろう」との間柄(付钱“交货之间”) 社会主義の商品は、顧客との間柄で、ただお金をもらう事だけではない。社会主義の商業と資本主義の商業とは異なる。資本主義はかなり利益追求で、お金さえあれば欲しいものは何でも買える。客はどんな服を注文しても店の人は少しも拒否しない。利益だけを追求する。これは資本主義の原則である。しかし、「高美」の女性客は、拒否された時、「私はお金を払う、だから私の注文を聞いてくれ」という事は、社会主義を理解してないことになる。社会主義の商業活動は、お金の責任を負わなければならない。わたしから見たら、女性客の求めを拒否したのは、その客の為である。女性客をブルジョアの方針から保護することである。それは、社会主義高度責任感の表現。消費高度な責任を負う表現である。(复旦大学 王锦园)</p>
6月28日(日)	2版	<p>「境界線はどのように値するか? 「奇装異服」が引き上げになった議論(界线应该怎样划? ——从奇装异服引起的议论)」</p> <p>断りにくいについて(所谓「情面难却」) 理髪店に新しい客が着た時、新しい髪型を注文するのは拒否できる。しかし、固定客が新しい髪型を注文しても拒否はしない。</p>

		この議論は、私にとって良い勉強になった。この問題について正しいことについて対応することができた。固定客でも客の要求する正当な内容を受け入れることは良いが、よくない事は説得すれば客も理解できる。技を積極的に向すれば美しい髪型が仕上がりに、客も納得する。自分の腕の磨き所と彼は思った。(南京理发公司立法師 威榮炳)
7月12日(日)	2版	「境界線はどのように値するか? 「奇装異服」が引き上げになった議論(境界線应该怎样划? ——从奇装异服引起的议论)」 (1) 原則を維持すると同時に態度を注意しなければならない(既要坚持原則又要注意态度) 今年の春節の時、ひとりの若者が店を訪れた。男女関係なく、ある一つのデザインを見せたら、その服の注文をした。その服は、外国のスタイルブックに載っている似た服ではなかった。投稿者はホッとした。なぜなら、以前彼は、同じような職場で店員をしていた、同じような状況の下で、社会主義の世界を守りとおせなかった。以前の自分がとった態度は政治責任が必要であった。サービス態度を考えると社会主義の世界では通らない。この時代、「奇装異服」は一般的には注文することは良くない。奇装異服を注文する人に店員は対応の態度に気を付けながら説得することが必要となる。(长虹服装厂工人曹正申) (2) 顧客のために高度の責任を負う(正是为了对顾客高度负责)(童涵春国药中心店副经理 包光宇)
7月13日(月)	2版	「境界線はどのように値するか? 「奇装異服」が引き上げになった議論(境界線应该怎样划? ——从奇装异服引起的议论)」 (1) 遅れた観念に迎合してはいけない(不能迎合落后心理) すべてこの時代は国営だから、「高美」のようにルールを守らなければならない。(卢湾区粮食局 单国芳)
7月19日(日)	2版	「これはただ服装のデザインだけの問題ですか? 「奇装異服」が引き上げになった議論(这只是服装式样的问题吗? ——从奇装异服引起的议论)」 (1) 編集者の話: 「奇装異服」に関する討論は、「大家談」に文書載せた。主に店の人と客の関係あることは、客と店の境界線を引くことで双方のトラブルが少なくなる。当社の紙面に、商業従業員の新しい風習を積極的に転回させる人というタイトルの社説を発表してから、大勢の従業員たちから自分の意見を発表してきた。同時に読者の要望に従って、これから議論するのは、服装方面でどのように境界線を引くかが問題である事が問題になった。例えば細いズボンを穿くと資産階級になるのか、社会風習に影響するのか。一人の服装と思想の関係をどのようにみるのか。また、細いズボンは新しい事なのか、それとも服装のデザインの革新になるのか等々。私達はみんなが発表するのは大歓迎です。一つのは、一つの問題について、自分の経験を一緒にこなしたらさらに良い。原稿の中の事は、全て真実である。 (2) 一つの議論(一場争论) 皆、「奇装異服」を反対した。でも、一人だけは、「奇装異服」について違った見方をしていた。彼の言うには、服装は階級制はない。本来はいいとか悪いとかない。わたしたちが反対するのは、行動が良くない人の事は反対する。服装を反対するのではない。社会が発展していけば、服装も発展していく。新しいことができるという事は、ほとんどは見慣れない。(天和电珠厂工人 賈鸿海)

7月23日(木)	2版	<p>「これはただ、服装のデザインだけの問題ですか？「奇装異服」が引き上げになった議論（这只是服装式样的问题吗？——从奇装异服引起的议论）」</p> <p>(1) 私が細いズボンを穿く前後（我穿小裤脚裤子的前后）投稿者は中学生の頃、資本主義の映画を見た（アメリカの映画）。その時、映画の中の素敵なファッションにあこがれ、中学卒業後、就職してからの給料は全部、自分の憧れのとがった靴、裾の細いズボン、シャツ等々、頭から足先まで「奇装異服」を買って身に付け、賭博などふしだらな生活をした。しかし上司から、注意され彼は自分を改めた。「奇装異服」から去り、二年位前に共産党に協力、仕事にも頑張り、毛沢東語録も勉強ボランティア活動に力を入れるようになった。彼は、細いズボンにあこがれ興味を示したが、ブルジョアの健康でないことにうらやましく思った時期があった。仕事にも損失を与えた。「奇装異服」は、最初から拒否し、警戒しなければいけなかったことだと投稿者は訴えた。（许卫皋）</p>
7月26日(日)	4版	<p>「これはただ、服装のデザインだけの問題ですか？「奇装異服」が引き上げになった議論（这只是服装式样的问题吗？——从奇装异服引起的议论）」</p> <p>(1) 「奇装異服」は私に与えられた危害（奇装异服对我的危害） 私は、「奇装異服」は美しいものと思っていた。私は、労働者の家庭に生まれたが、「奇装異服」に関心を示し、遊んでばかり、金使いも荒かった。友達は犯罪でつかまり、生活を改めた。若者の美に対する関心角度の問題はどのように分析したらよいのか、投稿者は新社会の人々は心の美しさを主体に、服装はシンプルでなければならないことになると訴えている。（陈有光）</p>
8月5日(木)	2版	<p>「これはただ、服装のデザインだけの問題ですか？「奇装異服」が引き上げになった議論（这只是服装式样的问题吗？——从奇装异服引起的议论）」</p> <p>(1) 「奇装異服」はどんなことなのですか！（奇装异服是怎么回事） いま、みんなが言っている「奇装異服」は健康でなくプロレタリアの嗜好。デザインは奇抜で、肌を露出する服装。だからこの「奇装異服」は、昔の上海で流行っていた。アメリカが中国を侵略した時、一緒に中国へ上陸したファッションである。私達から見れば新社会の女性は、ズボン、スカートをはくのが労働しやすいことになる。だから服飾が変化することは良い面、悪い面がある。わたしたちの言っている新種は社会の発展に合うものでなければならない。「奇装異服」はそういう服装ではない。</p> <p>(2) これは新しいデザインではない（这不是“新式样”！） 上記に掲げたように「奇装異服」はアメリカが作成した物であり、アメリカの生活方式でもある。新しいデザインではない。</p>
8月14日(金)	2版	<p>「これはただ、服装のデザインだけの問題ですか？「奇装異服」が引き上げになった議論（这只是服装式样的问题吗？——从奇装异服引起的议论）」</p> <p>(1) 服装と趣味（服装与爱好） 服装と髪型の趣味の話。全部階級制とは関係ない。しかし、その選択の階級制意識とは関係ないとはいえない。だから、自分の服装とか髪型を考える時、経済条件以外に社会的美観を考えなければいけない。何が美しいのか、見にくいのか、階級によって違う。だから、労働者には健康的な女性は美しいということで、ブルジョアは「奇装異服」が美しいととる。「奇装異服」を追究する人は、悪い人ではないが考え方が健康的でないことになる。（方豪）</p>

		(2)「奇装異服」はただ、個人の趣味の問題ですか？(奇装異服只是个人爱好问题吗?)「奇装異服」はそれぞれの趣味の問題である。さらに資産の趣味を反対して、労働人民の趣味を向上させる。これは社会の風習に関わる問題である。単なる個人の趣味の問題ではない。(阿金)
9月13日(日)	2版	<p>議論の大きな意義(议论的大意义)</p> <p>「これはただ、服装のデザインの問題ですか?「奇装異服」が引き上げになった議論(这只是服装式样的问题吗?——从奇装异服引起的议论)」</p> <p>(1)きれいですか、それとも醜いですか?(是美丽,还是丑恶?) 小さな細いズボン、オールバックの髪型など、多くの人たちは醜い「奇装異服」と認識している。しかし少数派は、美しいと認識していて、しかもきれいな名前を付けた。その名前は「新しい事(新生事物)」とし、この形は本当に美しいのか、それとも古臭い事なのか? 私たちがすでに着ている服は、服装が温かさを保ち、覆う役割以外にある程度、生活スタイル方式を表している。いろいろな生活方式は、民族の特長以外に階級社会の中にいつも一定の階級闘争の特長が歓迎されている。我が国の労働者の服装は、豊富で多彩で色彩が鮮やかでますます進歩していく。西洋の資本主義社会のブルジョアは、各種のおかしな服装を思い出して、その共通の特長がある。その特徴は豪華と刺激を求めて、おかしなデザインの装飾を求めている事、また、セクシー的な雰囲気を求めていることがある。それは、労働者の血と汗を搾り取り、変態な趣味で、何もない自分の精神的な世界を埋めるため、ブルジョアとの生活と方式が分けられないことになる。今日、「奇装異服」を反対するのは、ブルジョアの生活方式を反対するのと同じである。プロレタリアートの勤劳節約の社会風習を提唱して、若い世代が永遠に革命をして教育することが意義のある事である。以上の投稿内容は編集者の思いです。</p>

表1は、『解放日報』宛に読者から「決然として「奇装異服」の仕立てを拒否する(坚决制裁奇装异服)」、という声が入り、編集者は読者に「どのようにこの問題を捉えるか?(应该怎么样对待这个问题吗?)」と紙面上に提案した。その読者討論は4か月に渡って紙面上で行われたが、『解放日報』は1964年6月7日から4ヶ月間に渡ってその読者討論を、14回に渡って紙面上に掲載した。そのまとめた内容が上記に掲げた記事である。

高美服装店で買ったズボンの裾を細くしてほしいと頼んだ女性客の注文を店の従業員はかたくなに「奇装異服」と判断して拒否し、客の注文を引き受けなかった。それが発端で『解放日報』の読者投稿討論が話題になっていった。この当時、中国は社会主義国家体制で、資本主義を非プロレタリアートと判断した。中国は、政治と服装において密接な関係があるので、この時代には特にデザインでなくても軍服以外の服装は、全て社会のルール違反になるのではない

かと理解する。要は、プロレタリア一色の軍服にふさわしい衣服でなければ「奇装異服」として扱われた時代であった。

投稿討論の市民の意見を読んでいると、ほとんどの投稿者は、1964年、この当時、中国は社会主義思想であるから、そのことを認識してルールを守らなければならないと述べている。それに反発する一部の若者たちの行動は、国民に強行に政治体制を押し付けている社会主義思想の国家体制へのささやかな抵抗であると考えられる。若者たちは、ファッションに関心を持つのは当り前のことであるが、社会主義思想の社会においては、国で定められている服装以外は「奇装異服」として扱われた。

また、「奇装異服」とは、西洋（アメリカ）から流れてきた服装であると位置づけられている。8月5日の討論によると、「奇装異服」は新しい服装ではなくアメリカが作製した物であり、アメリカの生活方式でもあると述べられている。

では、新中国が成立してから、中米関係はどのような外交関係だったのだろうか。1950年代の中国外交は、アメリカを主敵とし、ソ連と同盟する連ソ反米外交であった。1960年代に入り、中国の外交はアメリカとの敵対を続けつつ、反米闘争、革命運動を支援し、徹底的に帝国主義に対決しなければならないとした。

過去に中国は、1945年7月26日、米・英・中三国によるポツダム宣言が発せられ、日本に対する降伏条件が発せられた。以後中国は国共内戦の準備は、アメリカの支援のもとに進められた。アメリカは中国に多額の援助と軍事援助とを国民政府につき込み、軍事顧問団を派遣した<sup>10)</sup>。その頃、中国の服飾社会は、アメリカのブルゾン、ジャンパーやジーンズが流行した。

しかし1950年、朝鮮戦争が勃発した時、北朝鮮がソ連の承認のもとで、南の軍事的統一を目指して発動したことは今日すでに明らかにされている<sup>11)</sup>。中国にも事前に通知していたが、国共内戦のときの応対からしてもアメリカは軍事介入しないか、介入してもたいしたことはしないと毛沢東は考えたからであり、そうであれば北朝鮮が短期間で武力統一を果たして終結するはずであったからである<sup>12)</sup>。北朝鮮やソ連の見方を受け入れたのであるが、毛沢東はここに

決定的な読みの違いがあった。奇襲攻撃した北朝鮮は、韓国軍を圧倒してソウルを没落させ、怒涛の勢いで南下して釜山に迫った。しかしトルーマン大統領はすぐに声明を発表し（6月27日）、この戦争をソ連や中国が結託した「共産主義の拡張」とみなした。アメリカは軍事介入決断することを決断したため、台湾海峡にも第七艦隊を派遣し、（これは中国にとっては、台湾の武力、解放が阻止されたことを意味した）フィリピン、インドシナでも反響勢力を支援することなどを表明し、アメリカ軍を主力とする国連軍を朝鮮に派遣させた（ソ連はたまたまボイコットしていて、拒否権を行使できなかった）。アメリカの軍事介入は、中国には大きな衝撃であった。朝鮮戦争は、1953年7月に休戦協定が調印されたが、以後も中国はアメリカと鋭く対立するようになった。ゆえに中国の服飾社会はこれ以後、アメリカの服飾製品に関わらなくなり、国民は着用しなくなっていった。

中米関係は、このような外交関係であったので、西洋の服装、特にアメリカの服装を着用することは、プロレタリアートにはふさわしくないと1964年頃は、拒否された時代であった。地味で質素な衣服以外は、全て欧米の華美な服装として敬遠されたのではないかと考えられる。

### (3) 討論の意義

「奇装異服」に関しての市民の投稿討論は4か月にわたって行われた中で、中間の7月19日と最後の紙面9月13日に、編集者の投稿をまとめた記事が掲載されたので両日まとめて討論の意義について以下にまとめる。

1) 「奇装異服」の討論を通して、市民たちはプロレタリアートの思想を抱き、ブルジョアの思想を消滅する教育を真剣に受け止め、ブルジョアの思想と生活スタイルを阻止する認識を高めた。この討論は、古い習慣を改めることに重大な役割を果たした。

2) 討論は、一つの服装のトラブルを発端に「決然として「奇装異服」の仕立てを拒否する（坚决裁制奇装异服）」、「どのようにこの問題を捉えるか?（应该怎么样对待这个问题吗?）」の投稿内容にもとづいて討議された。多くの機関、団体の共産党と共青团もこのことについて焦点をあてた学習会、心の相

談会、黑板报新聞、壁新聞などにも取り上げられた。一般市民、とりわけ若い人たちが討論を通して社会の問題点について深く関心を持つようになった。

3) 服装を着るのは、生活の中で小さなことのように見えるが、実は生活の中で異なる階級に審美観及び生活指向を反映させる。これは、市民たちが討論を通して得られた一つの共通の結論である。楽なことを好んで働かない搾取階級と無職で真面目な職業に従事しない、ならず者から見て、奇抜的な服装は彼らの生活スタイルの中に違和感なく浸透していく。彼らは心理的要求が落ちぶれているのであるが、それを彼らは落ちぶれたと思わない。だから彼らは、自分たちの要求が、社会に聞き入れてもらえるとう理解している。しかし社会主義において、国のために働いている労働者の衣服の好みは、安くて物が良く、着心地も良く便利で、質素で上品な服装を求めている。

4) 「奇装異服」は新しいデザインなのかについて上海天和電機工場の一部分の労働者たちは熱烈な議論をした。ある人は細いズボン新しい事であるかどうか。ある労働者たちはこの論点は正しくないのか否か、十分に批判することはできないといっている。彼らは、新聞にこの問題を提出して、各職業の人たちが積極的に議論に参加した。この問題は、ブルジョアが生活スタイルを提唱するか反対するかの問題だと回答している。このような答弁は、「奇装異服」を阻止する問題であり、議論はさらに一歩前進した。工場の一人の労働者は、「これはデザインではない」と、タイトルの中でいっている。いまみんな嫌いになる。それは着られなくなった問題ではなく、ブルジョア思想、生活スタイルの侵食を阻止するかどうかの問題である。プロレタリアートの思想は、緩めるとブルジョアの思想が攻めてくる。窮屈な見た目に余裕のない生活スタイルを彼らは理解している。服のデザインは、あくまで自分の嗜好にできるだけ近づけばと誰もが願う事である。

5) 上海服装用品講師と西安区衣着用品会社の二人の職員は、服装デザインの変化の具体的な事実に基づいて、二つの方向に進んでいったと指摘した。人民服、中山服が長袍・馬褂と変わったのは、人々の生活と労働の便利さの方向に変化したことにほかならない。これは、多くの人たちの趣味に合っていた。しかし、奇装異服はその正反対であった。それは、アメリカの生活スタイルで

の影響で、服装はますますおかしくなり、もともとの着心地の良さと美しさと上品さが無くなっていった。そのため、中山服を新しい服装と言うのは厳密には正しくない。各人が、事実を並べ、道理を説く。やっと「奇装異服」は“新しい事”の論点を話すことができた。「奇装異服」が“新しい事”と受け止められたのは、今後、ファッションを考えるとときの参考になるのではないだろうか。

6) この討論を通して、上海のサービス業に関しての従業員たちは、奇装異服を拒否することを認識しながら、さらに重要なのは積極的にプロレタリアート及び思想を信仰し、ブルジョアを消滅させる古い風俗風習を改める人になりたいと話し、社会商業活動は政治性が強い物なので古い慣習を改める責任感を強化するべきであると論じている。今日、「奇装異服」を反対するのは、ブルジョアの生活方式を反対するのと同じである。プロレタリアートの勤労や社会風習を提唱して、若い世代が永遠に革命を携わり、学んでいくことが大切であると考えられる。

上述した解放日報に寄せた投稿討論内容は、政治色関係なく『解放日報』が読者の投稿した声として紙面上にまとめて掲載したものである。これらの記事から、討論の意義は何であるのかを筆者なりに論述する。

討論の中でも位置づけていたが、長年、中国伝統衣裳である長袍・馬褂に代わって、中華人民共和国成立以後、人民服と中山服が中国の人々に多く着用されるようになった。それは活動しやすく労働するのにも便利である。共産党の歴史としては、毛沢東はプロレタリア革命に成功し、中華人民共和国の主席となる。1949年10月1日、毛沢東は中山服を着て天安門楼上で全世界に向けて中華人民共和国成立を宣言した。そして天安門広場の祝典には中国の多くの指導者が中山服を着用し、参加した。時代が変わっても、中山服は政治的色彩の服装であるから、中国の政治の世界では政治的服装として扱われている。また、人民服は1950年に毛沢東によって中山服の改造版として出現し、公務員や官僚たちに配布された。服装は、社会主義の思想が浸透している国の状況においては、西洋のデザインは受け付けられないということは難しく「奇装異服」として批判されるのは致し方無いと考える。

### 3. 『解放日報』にての「奇装異服」討論の記事の分析と文化大革命時代における「奇装異服」の在り方

#### (1) 上海の「奇装異服」の現状がもたらした全国への影響

上海の「奇装異服」に対する批判は、革命的な色づけと政治意識によって急速に全国に広がった。奇装異服に対する攻撃により、「奇装異服」はいまの社会状況には不適切な衣服と判定された。この「奇装異服」が、腐敗的なブルジョア思想の象徴と見なされたことによって、中国人の間でそのような服装を着用する人が減っていった。

その時の中国人から見た「奇装異服」の考え方の標準は、その当時『羊城晚報<sup>13)</sup>』が発表した記事「広州服装技術学習組」に書いてあるが、文章中でこの問題について回答されている。例えば女性の露出度が高いキャミソールルック、身体の線が出るタイトな服装、胸囲の高さを強調した上着、そうした着用は全部、「奇装異服」と該当する。男性のジーンズは、細い脚に見せかけるため裾幅を狭くしてある。男女ともに着用している花柄のシャツも、文章中でそれは異常な服装と批判している。「その一つの理由は、風習に背き、政治的にも刺激を与える。二つ目は、動きにくく健康に悪い。全ての「奇装異服」は西方の資本主義の国からまねたものである。我々の勤勉、素朴、労働を愛し、社会主義風習と反対方向に走っている<sup>14)</sup>」と述べている。

1964年頃の服装は階級制度によって分けられ、細いズボンの中に階級闘争が見られた。「奇装異服」は、全国的に話題になり、社会現象になった。しかしながら、長い年月がたったいま、人と違った新しい服装を「奇装異服」といって問題にすること自体があまり意味のない事のように思われる。

#### (2) ブルジョアとプロレタリアートに対する国民の考え方

今回の討論は、二つの段階に分かれている。第一段階は、「境界線をどのようにひくか（界线应该怎样划？）」という問題である。商業従事者は無制限に顧客に応じることが是とししない社会的な経営方針を打ち出し、一方、一部の消費者はこうした方針は間違えであると一石を投じた。『解放日報』では、この件についての討論を紙面上で展開することによって、ブルジョアとプロレタリ

アートの境界線をはっきりさせることを試みている。

第二段階は、「これは単なるデザインの問題ですか？（这只是服装式样的问题吗？）」といった、「奇装異服」の実質と危害について討論した。この討論を通じて読者たちは、不健康で腐敗した生活を送るブルジョアの力を弱体化し、健康的な生活を送るプロレタリアートの立場が向上することを期待した。

新聞は日常生活の中でいかに議論することが大切であるかを訴え、今度の討論は、女性客に対する攻撃ではなく、このことを通して生活の中でブルジョアとプロレタリアートの境界線を明白にしなければいけないということを伝えている。女性客は、自由奔放に店員に自分の注文を押し付けているように言われていたが、実はたまたま社会主義の経営しているお店に携わったので大騒動になったのではないだろうか。彼女の行動は、中国の多くの市民が、いま抱える社会の問題について議論するきっかけを作ったのではないかと考えられる。

### (3) 国家権力の干渉

1964年5月12日の記事が、『解放日報』に読者の投稿討論の場として4か月間掲載された。それから約2年2か月後、文化大革命が勃発した。「文化大革命」は、上層部の権力闘争や後継者の擁立という目的で発動された政治運動である。しかし意識的に一般の市民を巻き込んだことによって、国家権力による社会への徹底的な介入が見られた。こうした状況の下、「文化大革命」時代において、国家権力の市民の暮らしへの介入の象徴がファッションの変化に見られた。また、社会主義の政治において、新しいことを位置づけた「奇妙な服装」が話題になった。

上海は、「文化大革命」の突破口であり、中国の労働者が最も集中している地域であるため、労働者による「造反組織」も多い。さらに、上海市の一部の指導者がのちに「文化大革命」の中心人物になったことによって、「文化大革命」との関わりは他の地域よりも深く、当時の中国社会の縮図と考えられる。

国家権力によって作り上げられた「文化大革命」という「非常」な環境の下で、市民は日常生活という正常の部分を持しようとした。つまり人々が正常な生活を守ることは、「非常」な政治への抵抗であるとも考えられる。金大陸

氏は『非常と正常』の著書で、「文革の一側面とは国家権力による市民の日常生活領域への徹底的な介入であり、人々は国家の規定に沿ってびくびくしながら日常的な暮らしを送っていた」と述べている<sup>15)</sup>。市民はファッションの選択権利もなければ、生産する権利もなく、流行という事は禁物であり、人々の服装は人民服<sup>16)</sup>をベースにした服装であった。日常生活と階級制度が関連して何れもかもが階級制をベースにしたものであった。服装のスタイルも階級制と結びつき、どこにでも階級闘争が存在することになった。服装からも階級闘争の動向が見られた。

「文化大革命」の初期（1966年～1968年）では、男女の服装はほとんど区別がつかず、人民服をベースにして作製された軍服が主要な服であり、軍服一色の社会であった。軍服の「流行」は紅衛兵の登場とも関連し、さらに、紅衛兵の登場は人民解放軍の地位とも関係していた。紅衛兵とは、紅色の衛兵。すなわち、「軍隊に属さない解放軍兵士——毛沢東の衛兵」のことである。紅衛兵の服装も「帽章と襟章のない軍服」である。実は、毛沢東もしばしば紅衛兵の恰好で公の場で政治のアピールをした。1965年、毛沢東は解放軍の陸軍服を着用、天安門広場で紅衛兵たちに面会した。その時、毛沢東は彼らの行動を賛成することを表明した。以後、紅衛兵たちは、毛沢東との面会時、毛沢東が着用していた解放軍の軍服を参考に彼らの制服とした。軍服には、こうした背景があると考えられる。それと同時に、中国各地では、人々に対するチェックを行い、「奇抜な服装」と思われる場合は、切り破りなど強制的な措置をとった<sup>17)</sup>。

人々は、国家権力の干渉に対して、いわゆる「奇装異服」で抵抗し始めた。1966年、紅衛兵が街で「奇装異服」を切り砕くことに観衆は喝采していたが、1971年、紅衛兵が街で「奇装異服」を弾圧するに際して、様々な抵抗がなされた。「非常」な時代において、「奇装異服」は、現行の政策への反発であったと考えられる。

## おわりに

1960年中頃、中国の社会主義の時代において、社会の風習に合わない服装

を皆が「奇装異服」とみなした。人と違うデザインのズボンを注文した女性客に対して店主が拒否し、客と店側で議論が起きた。店員がその時の状況を記録し、「奇抜な服装に対してどのように対応したら良いのでしょうか？（应该怎样对待奇装异服？）」という手紙を『解放日報』に投稿した。『解放日報』は、その出来事を当時の社会状況を表す題材として取り上げ、読者による誌上討論を企画し、4か月間にわたって掲載した。その記事が話題となり、1964年11月14日の『人民日報』にも取り上げられた。

第2節2項「討論の投稿内容」に掲げたが、多くの労働者、農民、幹部、サービス業、人民解放軍に携わる人々、及び教師、一般市民等、多くの人々からたくさんの投稿が寄せられ、4か月間で1690件に上った。衣服を着るということは、生活の中の些細な行為に思えるが、この時代の中国では、階級や思想が反映されるものであり、個人の自由意志に任されているものではないという考え方が、多くの人々の討論を通して得られた結論である。

多くの読者が『解放日報』を通して、「奇装異服」は資本主義の産物と指摘している。討論の中では、服装は本来良い、悪いというものではなく、個人の趣味の問題であるという一部の意見があった。しかし多くは、搾取階級や無職の者たちに対して、彼らの生活スタイルや考え方が墮落しているから「奇抜な服装」を求めるのだという批判的な意見であった。労働を惜しまず、国のために働くことが国民の心がけであるという社会状況の中で、人々は働かない人達に対して厳しい目を向けていたことが読み取れた。中国の歴史を振り返ってみると、時代の変化に応じて新しい服装が入ってきたとき、人々は当初違和感があっても、じきに当たり前のこととして受け入れてきた。この問題は、新しいものが良くないということではなく、人々がブルジョア思想を受け入れるかどうかにある、と多くの投稿者が結論付けている。

第3節2項「ブルジョアとプロレタリアートに対する国民の考え方」で述べているが、女性客は、ズボンの裾を細くする注文を強行に行ったといわれている。実は、たまたま社会主義思想をもつお店に注文したために、傲慢な女性客とみなされたのではないだろうか。社会主義国家の政治体制になじまない注文をしたことが、ブルジョアとプロレタリアートの境界線を明白にするきっかけ

になったと考える。

1976年に「文化大革命」が終結すると、開放政策がとられ、海外の新しいデザインが国内に入ってくるようになった。1978年9月9日、『読売新聞』の朝刊に「北京変貌」という見出しの記事が載り、「文化大革命」終結から2年後の中国北京の服飾社会について書かれていた。「おしゃれも復活」というキャッチフレーズで、北京の王府井にある婦人服店を取り上げ、豊富な品数やデザインを集めたウインドーの様子を紹介していた<sup>18)</sup>。

「文化大革命」の時代、人々は着たい衣服を着用できず、人と違う衣服を注文すると批判された。しかし、終結からわずか2年で服装に対する受け止め方が大きく変化している。人々は服装を自由に選択できることに喜びを感じたと推察する。昨日までの異服が明日は普段着になることもある、ということが分かった。『奇装異服』の記事に出会い、詳しく検証したことで、政治体制が人々の考え方や服装に大きく影響を与えることを再認識した。今後、中国の服装についての研究を進めていくうえでも、歴史を学び、その当時の政治体制を知ることが重要であると、考えている。

## 注

- 1) 中嶋嶺雄『中国現代史』、有斐閣、1981年、204頁。
- 2) 中嶋嶺雄『中国現代史』、有斐閣、1981年、208頁。
- 3) 『人民日報』：中国共産党中央委員会機関紙、全国でも最も権威のある機関紙。1946年5月15日、邯鄲市で「人民日報」を創刊。1949年1月31日、人民解放軍は北平に入城した。華北『人民日報』も3月15日、北平に正式に移転した。同年8月、党中央の決定で同紙は同中央委員機関紙に昇格した。村田雄二郎、ほか4名編『岩波 現代中国事典』、岩波書店、1999年、591頁。
- 4) 元元「科学24小時」、『文史雑誌』2008年3号、28頁～29頁。

川劇(中国四川省地方劇)の新顔変化、変臉という技があり、皆を驚かせる短い時間、顔の変化がある。これと同じように、動物の世界の中にも一瞬でその身体の色とか、身体の姿が変化することが少なくない。このような変化は、見せるためではなく、自分を保護して生き延びるためである。

- 5) 源小珩「奇装異服——鈴木 Desperado400」、『摩托車』1998年8号、10頁。

この鈴木の新車バイクで、伝統と違うバイクは Desperado400。この名前から考

えると反発、自暴自棄という意味です。みなさんはただ想像するだけで、一群の奇装異服を着ている若者達が、公の場で叫ぶ馬鹿者を想像して下さい。その場を想像したらその場面がわかるでしょう（奇装異服を連想して下さい）。

- 6) 「絲綢」、『絲綢』1985年1号、11頁。

蚊を防虫するための服装を選んでイギリスの科学者たちが最近、蚊に刺されないように防止できるような対策を考えた。特殊な服装を作った。このコートは一見ガーゼのような素材で出来ているが、実は蚊を退治する防虫剤が織り込まれている。生地から蒸発して科学的な防虫の服装ができた。これを科学の奇装異服といった。

- 7) 東方明「1918、警方查禁奇装異服」、『検査風云』2006年2号、80頁～82頁。

1918年真夏、北京の街に奇装異服を着たなまめかしい女性たちが出現した。これらの奇装異服を着用した女性たちは、変な怪しいポーズをとって街中を歩いた。市民の不満が生じて、このことを地方政府が重視しこの行動が警察までばれて社会問題となった。この風習を新聞に取り上げ大問題となった。

- 8) 袁家菊「民間時期四川新生活運動婦女奇装異服」、『文史雜誌』2006年2号、12頁～14頁。

民国初期の新生活運動の中で、女性の奇装異服が話題になった。何でもない日常着がともすれば着方一つで奇装異服になりかねない。着方に気を付けよう。

- 9) 『解放日報』1964年6月7日、2版、顧志輝記者による記事。

- 10) 松丸道雄、ほか4名『中国史5』、山川出版社、2002年、187頁。

- 11) 和田春樹『朝鮮戦争』、岩波書店、1995年、135頁。

- 12) 朱建栄『毛沢東の朝鮮戦争』、岩波書店、1991年、78頁。

- 13) 『羊城晚報』：1957年創刊、1980年広州地区で新聞ウェブサイト開始「金羊城」。は当たり前となった」[http://www.abbao.cn/paper/paper\\_148.html](http://www.abbao.cn/paper/paper_148.html)、2016年10月20日。

- 14) 孫沛東「褲脚的階級斗争——“文革”時期広東的“奇装異服”与国家規訓」、『開放時代』、2010年5号、84頁～101頁。

- 15) 金大陸『非常興正常』上巻、上海辞書出版社、2011年、215頁。

- 16) 「人民服」とは、中華人民共和国が誕生した翌年（1950年）、毛沢東は軍服を参考に国民の服を考察した。国民の服装を作成した。軍服に中山服様式をデザインに採り入れ、「軍便服」を作成し、中国の公務員の制服として配布した。その服装を人民服とも呼んだ。

- 17) 金大陸『非常興正常』上巻、上海辞書出版社、2011年、213頁。

- 18) 「北京の変遷」『読売新聞』、1978年9月9日、朝刊3頁。「街に彩りを添えるもののひとつは、女性のオシャレ復活。スカートも珍しくなくなった。着こなし、デザインはまだまだやぼったいが、個性的な色やスタイルも目に付くようになった。ワン

ピースもボツボツ復活。この方は小売店、デパートにも出ていないから、文革中はタンスの中に眠っていたのだろうか。階級闘争に明け暮れた時代には、「奇装異服」とされ、舞台の上でなければお目にかかれなかったものだ。こうした「復古調」は、先ごろ湖南省の長沙で開かれた全中国服装展に、文革期に姿を消した代表的な「旗袍」が展示されたことですっかり本モノとなった。北京ではスリットを大きく切り上げたスカートで街を歩く女性を見かけることも多くなった。男性の方は相変わらず人民服であるが、海外赴任者の背広新調は当たり前となった……」。